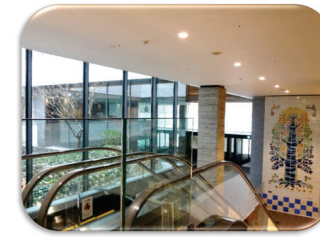


松山赤十字病院の概要・現状

- ◆病床数585床 診療科34科の急性期病院
- ◆地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院・地域災害拠点病院など
- ◆病床稼働率：87.6%
- ◆平均在院日数：10.3日（2023年7月末現在）



糖尿病教育入院パスのバリエーション分析

松山赤十字病院
看護部
白石多恵 山下弘子

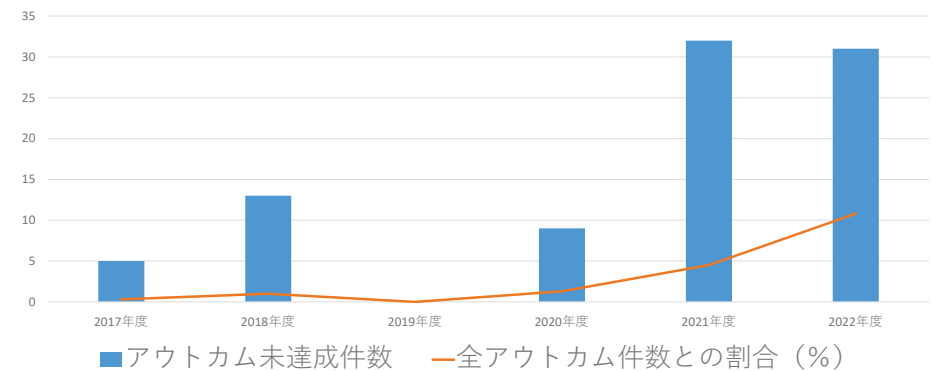
糖尿病教育入院パスの特徴

- ◆入院期間：11日間
- ◆知識・教育のアウトカムが中心
「患者側：コンプライアンスの問題（理解不足）」のバリエーションが生じる

日程	アウトカム	条件
1日目	日常生活の注意点について理解できる	感染予防(手洗い・うがい・マスクなどの)必要性を言える
	入院生活について理解できる	病棟のルールを守った行動ができる
2日目	疾患について理解できる	糖尿病治療を言える
	栄養管理について理解できる	栄養指導の内容を言える
3日目	疾患について理解できる	指示カロリーを言える
	合併症について理解できる	検査データの目標値を言える
4日目	自己管理ができる	フットケアの必要性を言える
	自己管理ができる	運動ができる
5日目	自己管理ができる	運動ができる
	合併症について理解できる	問題点を言語化できる
6日目	合併症について理解できる	3大合併症を言える
	高血糖の症状・所見がない	多飲がない
7日目	高血糖の症状・所見がない	口渇がない
	治療について理解できる	低血糖症状を言える
8日目	治療について理解できる	薬の内容を知っている
	自己管理ができる	退院後のスケジュールを立案できる
9日目	自己管理ができる	強い空腹感がない
	低血糖の症状・所見がない	冷汗がない
10日目	低血糖の症状・所見がない	退院後の日常生活のわからないことを聞くことができる
	日常生活の注意点について理解できる	退院後の生活に対する不安の訴えがない
11日目	日常生活の注意点について理解できる	退院後の生活に対する不安の訴えがない

■ 知識・教育 ■ 患者状態

アウトカム未達成件数の推移



目的

- ◆糖尿病教育入院パス適用患者のアウトカム未達成項目を抽出し、バリエーション発生の要因分析を行い、パスの問題点を明らかにし、今後の改善点を検討する。

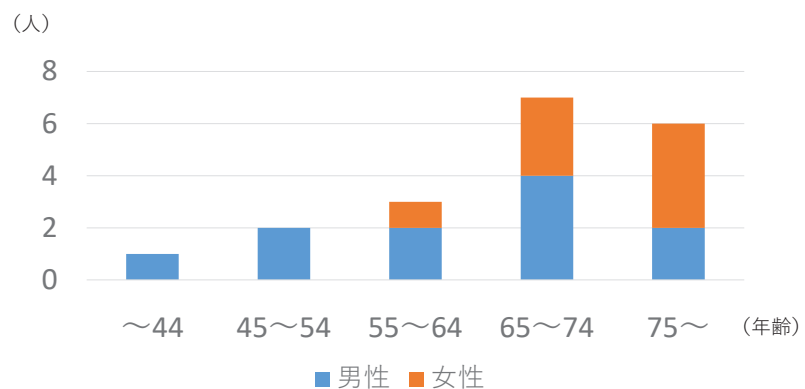
倫理的配慮

- ◆個人が特定されないよう、識別できる情報を削除
- ◆松山赤十字病院医療倫理委員会で承認

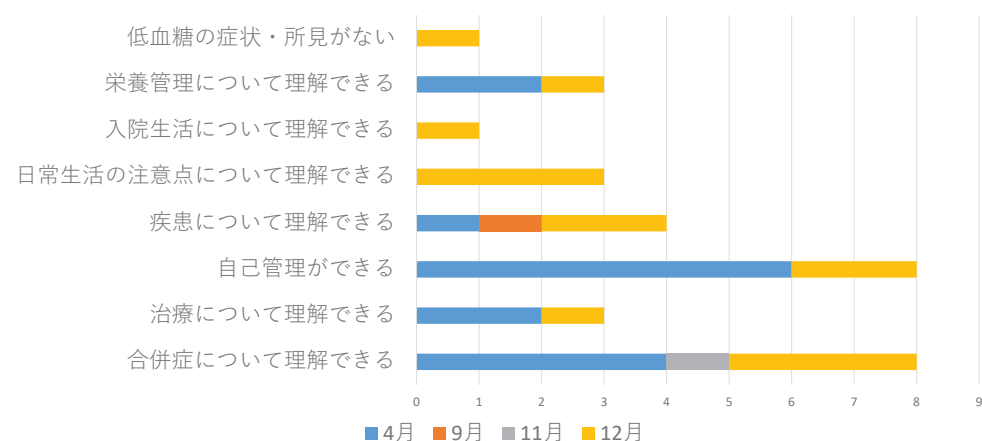
調査期間・対象者

- ◆2022年4月1日～2022年12月31日
- ◆上記期間に、パスが適用された患者19名

対象者背景



アウトカム別 未達成項目



アウトカム未達成 患者別

日程	アウトカム	アウトカム未達成患者						
		4月	9月	11月	12月			
		A	B	C	D	E	F	G
1日目	・日常生活の注意点について理解できる ・入院生活について理解できる							1
2日目	・疾患について理解できる							1
3日目	・栄養管理について理解できる ・疾患について理解できる	1	1					1
4日目	・合併症について理解できる ・自己管理ができる	1	1					1
5日目	・自己管理ができる	1	1					1
6日目	・合併症について理解できる	1	1			1	1	1
7日目	・高血糖の症状・所見がない							
8日目	・治療について理解できる	1		1				1
9日目	・自己管理ができる	1			1			1
10日目	・低血糖の症状・所見がない ・日常生活の注意点について理解できる							1
11日目	・日常生活の注意点について理解できる							1
未達成アウトカムの合計		8	6	1	1	1	1	13

◆特定の患者で
アウトカムが未達成
である傾向

認知機能障害を疑う手がかり

- ◆記憶障害（物忘れ）、手段的ADLの低下、**セルフケアのアドヒアランス低下**、心理状態の悪化など
- ◆75歳以上、HbA1c8.5%以上、重症低血糖の既往、脳卒中の既往がある場合



主治医またはリハビリスタッフへ認知機能評価を依頼

【A氏・G氏の認知機能に係る情報】

患者	年齢	HbA1c	重症低血糖の既往	脳卒中の既往(大血管障害)	HDS-R
A	75歳以上	13%台	なし	なし	18
G	75歳以上	13%台	なし	なし	23

認知症の疑い、もしくは認知機能低下を認めている

分析結果

- ◆適応基準を満たさない患者が、教育入院としてパス適用されていることが、バリエーション発生の要因

今後の課題

- ◆教育入院の適応・除外基準について、カンファレンス等で医師と適正な患者選択について再度確認
- ◆高齢化の状況に合わせた見直し（パス、プログラム内容）も検討
- ◆セルフケアのアドヒアランスが低下している患者に対して、外来での療養支援等看護の充実

